

スノーアドベンチャー

1月11日(土) ~ 1月13日(月)

IN 尼崎市立美方高原自然の家

	午前	午後	夜
1日目	施設に向け出発	雪に慣れよう	キャンドル作り、作戦会議
2日目	スノーシュー体験	スノーハイク	キャンドルナイト、雪中泊
3日目	片付け、グループタイム	施設を出発 解散式	

一日目： 冬キャンプ最後のイベントが開催されました。この期間中、日本海側は大寒波の影響で豪雪と聞いており、参加者のテンションもMAXでスタートしました。バスで4時間程の道のりでしたが、車内は終始盛り上がり、バス内で既に最高潮を迎えているようでした。施設に近づくにつれ雪が増え、興奮がますますヒートアップしていました。施設に到着後、早速昼食を済まし、一日目は「雪に慣れる」ことを目的に、服装、事前準備、ルールなどをしっかりと伝え、活動を行いました。参加者もただ遊びに来ているのではなく、雪を楽しむことを分かっているようで、メリハリがしっかりと出ていました。その中でグループを意識し、存分に楽しんでいました。オリエンテーションを済まし、夕食も終わらせたあと、翌日からより雪の活動を楽しむ為の話合いとキャンドル作りを行いました。どのグループも話し合いでは、グループを想い、皆の事を考えて発言されていました。キャンドル作りは、色とりどりのオリジナルキャンドルが出来ており、明日の夜がとても楽しみです。明日から、本番です。アドベンチャーを皆で共有できるように大いに楽しみます。



二日目： 二日目は一日中外で活動を行いました。午前は、初めて履くスノーシューの練習を行いました。履き方から、歩き方、注意点などを歩きながら、学びました。お昼は炊き出しの『スタッフ特製!! 次郎ラーメン』を食べました。ここである参加者が「今まで食べたラーメンの中で一番美味しい!!」と言っておられました。屋内で食べると、これほどの感想は出てこないと思いますが、キャンプで冬山だからこそ出てくる言葉なのだと思います。午後からはスノーシューを履いて、施設をぐるっと一周するハイキングに出かけました。スノーシューのおかげとは言うものの、それでも雪に足を取られ、体力を奪われます。しかし、大自然の感動と楽しさがそれを和らげ、皆無事にゴールに辿りつく事が出来ました。施設に一度戻り、入浴と夕食で充電をしっかりと行い、夜に向けてキャンプ場へ再出発しました。キャンプ場では、七輪と前日に作ったキャンドルを使ったキャンドルナイトを行いました。七輪で美味しい物を焼き、キャンドルの灯りで、美味しさと楽しさをグループで共有していました。キャンドルナイト後は、寝袋を作成し、テントで雪中泊を行いました。寒そうと言いつつも、いざ入ると意外にも暖かく、快適そうでした。明日の朝は、天気によければ絶好の景色が見られるので、とても楽しみです。



三日目： まだ夜が明けていない薄暗い中、最終日は始まりました。使った寝袋、テントを片付けるために、疲れきった体にもう一踏ん張りし、みんな本当に頑張っていました。雪も降っている中、協力し片付けを終え、施設に戻りました。施設に入るとみんなの顔から安堵感が見え、それだけ疲れているのだな。と実感しました。遅めの朝食を取り、最後の雪遊びに出掛けました。屋内で過ごすグループもありましたが、最後までとことん雪と戯れようとするグループもありました。あつというまに時間は過ぎ、昼食を食べ終え、施設を出発する時間がやってきました。施設に向かい、大きな声で感謝を表し、そして施設を後にしました。休んでいるメンバーもいましたが、最後の最後まで元気に騒いでいる子もおり、本当に子どもも元気は底がありません。予定より、少し早めに尼崎に帰ってき、解散をしました。「また来たい!!」という声もいただき、参加者の心に確かな思い出として、残ったと実感しました。



<キャンプ総括>

雪の中での活動で、おそらく全てが初体験な活動だったと思います。まずフィールドの雪の量に驚かれたと思います。皆さんの顔に露に想いが出ていました。いつもなら雪を見ると興奮し、話を聞かず走り回っているのですが、今回は違うと皆さん感じ取られ、ルールやアドバイス、方法をしっかりと聞いていただけました。おかげで、とても満足度の高い内容を展開出来たと思います。特に二日目は濃く、大雪原の中をハイキングしたり、雪中泊したりと身心ともに疲れるプログラムが目白押しでした。そんな中、お互いで声をかけ、皆で前向きに進んでいたように感じました。帰る頃には、「また参加したい!!」というお声をいただきました。雪中では、まだまだ魅力的なプログラムがあります。より自然に対してアドベンチャー出来るような活動を提供していきます。(竹中 哲郎)